



敦煌研究院學術講演「敦煌飛天の動態設計研究」事例作品より

飛天ペーパーナイフ

FEI TIAN paper knife

3×40×215cm ステンレス製 ヘアライン処理

高梨隆雄 TAKANASHI Takao

Department of Design

飛天ペーパーナイフ 解説

本作品は、平成11年9月3日に中国敦煌研究院において「敦煌飛天の動態設計研究」の学術講演の事例作品として制作、提示した「飛天」ペーパーナイフである。結果、敦煌飛天の応用研究としての、また芸術作品であるとの評価を得ている。

一般に、ペーパーナイフのデザインは、直刀型の形態で直截的なイメージとなっているが、感性時代の現今「優しさ」が時代的キーワードとなっている。地球に優しい、人に優しい等である。この優しさに美を加味した「優美さ」を求めてのペーパーナイフのデザイン制作である。更に、ペーパーナイフのデザイン設計として、動態設計方法を導入した。動態としての基本的な造形思考は、空気や水などの流体が規則的に流れるときに作られる華麗な美的流動態にある。ここに、世界に誇る東洋美の敦煌飛天に着目して、飛天流動の天衣描写線（流線）による動態設計方法をペーパーナイフのデザイン設計に導入した。「敦煌飛天の動態設計研究」の事例作品としての「飛天ペーパーナイフ」デザイン設計方法である。

敦煌飛天、特に第172窟における飛天流動態の天衣流線の表現手法として、運動機構学の流線作図法を適用する。連続する曲率半径線の作図の場合、その変曲点において共通接線を有し、同方向であることが流線の必要条件となる。また、セントロイドの方向が出来るだけ一方向に向いていることが望ましい。これらの条件を備えているのが、172窟の天衣流線である。これの敦煌飛天の応用制作事例として「飛天ペーパーナイフ」を創作した。（下図参照）

